

はじめに

本書は、統計解析を“敵方”から“味方”へコンバートさせる虎の巻です。

“難しい”という先入観で統計手法を学ぶことから逃げ続けてきた理学療法士のAさんや言語聴覚士のBさん、専門書を開いてはみたけれど、「*t*検定」や「分散分析」というなじみのない言葉や難解な数式のオンパレードで統計に対してアレルギー反応が出てしまった看護師のCさん、データを収集したけれど「どの統計手法を選択すればよいのかわからなかった」、「変数の性質上、想定していた統計手法が使えなかった」など、変数と統計手法の選択が障害となり何度もつまづいたという作業療法士のDさんや管理栄養士のEさん。

統計解析は“敵方”と思っていませんか？確かに統計解析は複雑かつ難解な存在です。しかし、われわれメディカルスタッフにとって（データをまとめる際に）統計解析は力強い“味方”であり、なくてはならない存在です。そして、本書には、敵陣営でどっしり構えている統計解析を、味方陣営に寝返らせるための戦術を多く掲載しています。

◆ ◆ ◆
本書では、統計解析を“味方”にするための戦術をマスターするために、次の4つのエッセンスをとり入れました。

1つ目は、データの種類（変数の種類）から統計手法を選択できるようにした点です。従来のは、「○○分析はアウトカムが△△変数の場合に□□を検討する際に用い…」というように、統計手法ありきの説明となるため、初学者はどうしても統計解析を敵視してしまいがちでした。その点、本書では「△△変数で□□の検討をしたいのであれば○○分析」というようにデータの種類と目的から統計手法を一目で選ぶことができるようにしました。

2つ目は、統計解析をよりイメージしやすいように対象別（高齢者、運動器疾患、内部疾患、中枢神経疾患）に76の事例として紹介した点です。ご自身の興味に即した対象のページを読むことで、より身近に、そしてよりリアルに統計解析を体感することができます。

3つ目は、統計解析の方法や結果を学会用抄録や論文としてまとめる際にどのように掲載しているのか、文章と図表による具体例を示した点です。具体化された統計解析を知ることで、ご自身がまとめる際の参考になることはもちろん、このような記載ができるようになるという統計解析の具体的な学習目標設定にもつながります。

4つ目は、前述3つのエッセンスを見開きページで完結させた点です。本書は辞書のように、そのつど必要な内容を調べるという使い方もできます。短時間で読み切ることのできる見開きページ完結型となっているので、日々の臨床業務の合間にもすぐに確認することができます。

◆ ◆ ◆
これら4つのエッセンスには、統計解析を味方陣営に寝返らせる多くのヒントが含まれています。それでは、本書を片手に、研究というフィールドで統計解析とともに奮闘しましょう！統計解析はきっと大きな戦力となってくれるはずです。

2018年5月

山田 実